

土木学会原子力土木委員会 新立地部会
平成 13 年度 第 2 回 断層活動性分科会
議事録

日 時 平成 14 年 3 月 5 日 14:00_16:20

場 所 弘済会館会議室

出席者 (敬称略, 50 音順)

主 査 垣見 (元原子力発電技術機構)

副主査 井上 (電中研)

委 員 今泉 (山梨大), 入佐 (経済産業省), 大野 (四国電力), 片川 (北陸電力),
金折 (山口大), 鎌田 (九州電力; 代理 / 西嶋), 河野 (電源開発; 代理 / 伝
法谷), 北川 (日本原電), 酒井 (東京電力), 下川 (産総研), 佃 (産総研),
中西 (中部電力), 野口 (中国電力), 橋本 (東北電力), 本荘 (総合地質),
山崎 (都立大), 横倉 (産総研)

幹事長 宮腰 (電中研)

幹 事 青柳, 阿部, 三浦 (以上電中研)

オブザーバー 浜田 (電中研), 吉田 (北陸電力)

議事概要 (平成 14 年度第 1 回断層活動性分科会にて承認済みの議事録からの抜粋)

1. 前回議事録 (案) 確認

平成 13 年度第 2 回分科会の議事録 (案) について内容の確認後, 承認された。

2. 平成 13 年度糸魚川 静岡構造線活断層系調査結果の報告

平成 13 年度糸魚川 静岡構造線活断層系のトレンチ調査結果として, 牛伏寺断層の活動履歴, 最新活動年代, 単位変位量等について報告がなされた。また, これらの調査結果を含めた, それまでの調査結果から考えられる糸-静線全体の活動モデルおよび今後の調査計画(案)についての説明が行われた。この報告に対して, 以下の質疑応答があった。

- ・ 単位変位量の計測方法に対して質疑があり, 概ね妥当であることが確認された。
- ・ 塩尻峠をセグメント境界として設定することに対して, 質疑・議論があり, 反射法地震探査結果に基づく地下断層構造, トレンチ調査結果等を基に設定している旨の回答があった。

3. 長大活断層系のセグメンテーションについて

長大活断層系のセグメンテーションに関する国内の研究事例が紹介された。それに対して以下の質疑応答がなされた。

- ・ 断層が陸域にあればいいが, 海域に及んだ場合については断層活動性分科会としてどのように扱うのか。海域のみに存在する場合や, 海域と陸域にまたがって存在する場合, などとの質疑があり, 断層活動性分科会としては, 陸の問題を中心に考えてきた。海は海, 陸は陸でやったときもそれなりの成果はあったとの回答があった。
- ・ 長大活断層系のセグメンテーションについては, 他のグループも検討している。セグメントの最小単位と最大単位というように, 2 スケールくらいにしぼって検討してはどうか。そのようなスケール分けが原子力土木という観点では重要。セグメントが連動して地震が発生する場合, M そのものは大きくなるが, 単位変位量そのものはあまり変わらない。工学的には変位量の大きさが重要なので, 各セグメントの単位変位量を検討してはどうか等のコメントに対して, 変位量を調べることは, セグメント区分にもつながることから重要, 変位量とセグメントとの相関も分かってきた。海域の場合の

検討は重要なので、今後の課題として捉えているとの回答があった。

以上